

テーマ：『 学校周辺の自然環境を活用した環境教育の全校的な取組 』

横浜市立 矢部小学校

Tel. 045-871-3408

担当者： 西野 絹江



<地域の方々との田植えの様子>



<谷矢部池公園の掻掘り>

■実践内容:

- 学校に隣接した「谷矢部池公園」内の畑では、1年生がサツマイモ、2年生がダイコン、6年生がジャガイモ、トウモロコシの栽培を行った。今年度は、地域の方々の協力を得て畑の一部を掘って新たに水田を作り、5年生がイネの栽培を行った。3年生は竹林でタケノコ掘りを行い、4年生は雑木林でシイタケの栽培を行った。全学年の子どもたちが「谷矢部池公園」の自然とかかわりながら、収穫の喜びを実感できるようにした。収穫後、当該学年の子どもたちが児童朝会などの場で全校児童に紹介したり、食材として給食に活用していただいたりすることで、喜びを分かち合うことができたようにした。
- 野菜の栽培や収穫にあたっては、「わかぎの会」や「畑ボランティア」の方々のご協力をいただいている。子どもたちは、収穫の日までにこれらの方々と交流を重ねるなど、一緒に活動を行ってきた。
- 「矢部メダカ」などの固有種を保護するため、地域の協力を得て10年ぶりに「谷矢部池」の掻掘りを行った。
- 5年生は、理科や総合の時間に「矢部メダカ」を育て、殖やす活動やホテルを呼び戻す活動にも取り組んだ。よりよい生育環境を保持するため、ゴミ拾いや雑草取りの活動を継続して行った。
- 栽培・収穫活動や飼育・増殖活動の様子は、「谷矢部池公園だより」に載せて全校配布をするとともに、HPで発信することで、本校の特色ある環境教育の取組を広く知ってもらうようにした。

■実践成果:

- サツマイモ、ダイコン、ジャガイモ、シイタケは比較的育てやすく、安定した収穫が得られた。初めての水田での米作りであったが、こちらも豊作であった。子どもたちには、順調に育っていく作物を見て収穫を心待ちにしながら、心を込めて世話をしている様子が見られた。
- 身近な畑で育てた野菜を給食の食材として活用することで、子どもたちに、安心・安全な食についての知識や食材に対する感謝の思いなどを自然に高めることができた。
- 掻掘りにより「谷矢部池」の生育環境の現状を把握することができた。外来種はあまり入り込んでいないことがわかったが、在来種保護をしていくために、何に取り組んでいったらよいかを考えるきっかけとなった。
- 「わかぎの会」や「畑ボランティア」の方々との交流を通して、地域の方からたくさんのことを子どもたちは学んだ。世話の仕方を実際に見たり、故郷を愛し誇りに思う言葉に接したりすることで子どもたち自身の中に「故郷を自慢に思う心」を育むことにつながることができた。

■実践ポイント:

- 豊かな里山の自然の中、野菜づくりや在来生物を身近に感じる自然環境を生かした栽培活動や飼育・保護活動
- たくさんの方々の地域の方々とのふれあいによる、豊かな「学びの場」づくりとPR活動